

# アーツサポート関西 成果報告会 2017

8月21日／中之島センタービル 29F（大阪市北区）

## 助成を受けたアーティストが 活動報告とパフォーマンスを披露

アーツサポート関西(ASK)は本年で創設4年目を迎え、おかげさまでこれまでの寄付の累計が1億円に達する見込みとなりました。8月21日、ASKの助成を受けたアーティストたちによる「成果報告会」が行われ、150人を超える来場者がアーティストが語る助成活動に耳を傾け、パフォーマンスを楽しみました。

前半のトークコーナーでは、若手唸家として今、大活躍の桂雀太さんが、助成を受けたアーティストからお話を伺いました。ASKは2014年から若い人たちに文楽に親しんでもらう取り組み「ワンコイン文楽」を支援しており、この日は、この活動に取り組む文楽技芸員を代表して豊竹咲甫太夫さんが来場。文楽を観たことがない若者たちが文楽に興味を持つようになった経緯などをお話いただきました。咲甫太夫さんは、来春、竹本織太夫を襲名、妻でオペラ歌手の増田いずみさんも駆け付け、和と洋の双方で活躍するご夫妻のお子さんへの接し方などを、雀太さんがユーモアたっぷりに聞き出し、会場は大きな笑いに包まれました。

また、40歳未満の若手芸術家を支援する「岩井コスモ証券ASK支援寄金」から助成を受けたアーティストである日本を代表するクラシック・アコーディオン奏者の松原智美さん、国際的なソロ・ヴァイオリン奏者を目指す周防亮介さんが演奏

を披露し、これまでの活動、今後の展望などについて語っていただきました。

続いて、アートを活用した社会的な取り組みの

事例紹介として、耳原総合病院（堺市）におけるホスピタルアートの活動について、アートディレクターの室野愛子さん（NPO法人アーツプロジェクト理事）が講演。アートと医療のいずれもが人を癒すものであり、病院の中にアートがあることで患者の意識が変わることや、医師や看護師たちもアートの活用に積極的に取り組んでいる模様を紹介されました。

後半のコンサートでは、ASKの支援によって練習場が確保できた羽曳野少年少女合唱団が、松原さんの伴奏で合唱を披露しました。また、「舞描」と呼ばれるダンスを取り入れたライブペイントを行うアーティスト・鉄秀さんとも共演。厳かな宗教曲を歌う少年少女合唱団の歌声に合わせて、鉄秀さんが舞台に置かれた大きなキャンバスに全身を動かして描いていくと、来場者は、前衛的なペインティングと子どもたちの澄んだ歌声がひとつに融合していく様子に見入っていました。



松原智美さん



豊竹咲甫太夫さん(左)・増田いずみさんご夫妻



羽曳野少年少女合唱団

羽曳野少年少女合唱団の歌声にあわせてライブペイントをする鉄秀さん

## （助成事業紹介）

湯川洋康

### 「JAPANESE CONNECTIONS 展」に参加

2017年7月1日～8月6日

ニコライ現代美術館（デンマーク・コペンハーゲン）



湯川洋康さんによるニコライ現代美術館での展示風景  
©2017YukawaNakayasu

現代美術アーティストの湯川洋康さんが、デンマークのニコライ現代美術館で開催された日本の現代美術を紹介する展覧会「Japanese Connections」に参加しました。岩井コスモ証券が支援するアーティストの一人である湯川さんは、Yukawa-Nakayasuというユニットで活動し、日常に潜む記憶や歴史を表層に浮かび上がらせる立体や写真、映像など多様な作品を制作しています。

今回の展示では、かつては教会だった美術館に保管されていた装飾品や古いタイルなどを現代の日用品などと組み合わせ、空間構成的な作品を現地で制作しました。展覧会のオープニングでは、地元メディアや美術関係者から、作品に込められた日本的要素などについて多くの質問が寄せられました。

### アンキャッチャブル・ストーリー展

2017年6月11日～7月17日

瑞雲庵（京都市 北区）



瑞雲庵での展示風景（Photo by Hyogo Mugyuda）

京都の古い民家を改装した「瑞雲庵」で現代美術の展覧会「アンキャッチャブル・ストーリー展」が開催されました。キュレーターの武本彩子さんの企画による本展は、つかまえようとするとスルリと逃げていくような「アンキャッチャブル」な状況をテーマに、牛島光太郎さん、田中秀介さん、阿児（あこ）つばささんの3名の若手アーティストの作品が展示されました。

牛島さんは、路上で拾った数百点におよぶボタンやキーホルダーなどのモノを、本来の用途とは無関係に和室の畳の上に一面に広げ、田中さんは日常の風景が歪み異物の映り込んだような絵画を、阿児さんは札幌の「幌（ポロ）」という言葉にまつわる歴史的・文化的背景を、メモや写真、立体などを介して浮かび上がらせる作品を展示。対象とその意味との相関性について考えさせる展覧会となりました。

### 松原智美 400年の音の旅

2017年10月21日

あしびの郷（奈良市）



松原智美さんらの演奏風景（あしびの郷）



松原智美さん（左）  
荒井結子さん（右）  
中央は作曲家の北條美香代さん

岩井コスモ証券が支援するアコーディオン奏者の松原智美さんが、チェロ奏者の荒井結子さんと奈良でデュオコンサートを開催しました。会場となったあしびの郷は、奈良公園に近い町屋が建ち並ぶ奈良町にあり、古都情緒たっぷりの場所。ここで松原さんは、バロック音楽からこの演奏会のために書き下ろした現代曲を含む9曲を演奏しました。弦楽器のチェロとアコーディオンの二つの際立った音が互いを刺激しあい、共鳴し、絡まりあいながら時代や曲想の異なるさまざまな曲を一気に描き切る演奏は、まさに圧巻でした。とくにタンゴのリズムによるアストル・ピアソラ（アルゼンチンの作曲家、バンドネオン奏者）の曲では、卓越した技術を持つ二人の力量がいかに発揮され、会場から大きな拍手が沸き起こりました。